

2008 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">人間と社会 B</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">人間人社 1 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">岡島 克樹</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">われわれは現代の日本社会をどのように生きればいいのか？</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>ギデンスであれ、ライヒであれ、ベックであれ、最近注目されている海外の研究者は、議論のアングルは異なるが、いずれも一つのことを言っている。その彼らに共通する一つの主張とは、1990 年代前半までの先進国と 1990 年後半以降の先進国とは根本的な違いがあるというものである。日本も、他の先進国と同様、現在は、古い経済・社会システムから新しいものへと移り変わっていく転換期に位置している。大学生活にも一定慣れた 1 回生の後期に開講される本講では、改めて大学というところで身につけるべきこととは何かという問題を見つめながら、いくつかの課題を学生の皆さんと一緒に考えていく。</p>		
<p>評価方法</p> <p>期末レポート (60 点) と出席点 (40 点)・・・毎回出席をとる。</p>		
<p>テキスト</p> <p>適宜コピーして配布する。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p> <p>適宜指示する。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>上記のように、われわれが生きる 2000 年代の日本は古いシステムから新しいシステムへと転換する時期にあり、新しい社会の全貌が見えないので、社会には不安感が蔓延している。</p> <p>しかし、嘆く必要はない。かつての古い「マニュアル」社会では知識テストで高い点数を取れる者が重宝されたが、これからの、マニュアルの効かない「不安定化する社会」(ウルリッヒ・ベック)では、問題の諸原因を複数の視点で複眼的に深く探り、その諸原因に対する解決策を提示し、人とつながりながら集団で行動できる能力が重要になってくることがますます明らかになってきているからである(知識が不要であると言っているわけではない。念のため)。やるべきことの方向性は決して不明瞭ではないのである。</p> <p>以上のような視点を踏まえ、本講では、日本社会で見られる「現象」を知識として理解しつつ、その現象の「諸原因」を探っていく。簡単に言えば、何気なく新聞記事を読み、テレビを見るのではなく、「何故?」「どうして?」と問う力の開発を目標にして、概ね以下のようなスケジュールで授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (教員の自己紹介、注意事項、講義のルール等) 2. 大学におけるレポート作成の注意点—「自分の言葉で書く」ことの重要性和引用・要約のルール 3. 論点 1 : その時に話題になっている政治問題を取り上げる 4. つづき 5. つづき 6. 論点 2 : 「HIV を含む性感染症や望まない妊娠の増加という現象とその諸原因とは何か」 7. つづき 8. つづき 9. 論点 3 : 「いじめの増加という現象とその諸原因とは何か」 10. つづき 11. つづき 12. 論点 4 : 「不安定就労 (フリーターなど) の増加という現象とその諸原因とは何か」 13. つづき 14. つづき 15. まとめ <p>なお、本講では、グループで諸原因について考え、その結果を KJ 法を使って整理し、まとめるという訓練もあわせて行う。</p>		